

獣の王国

ヨハネの黙示録一三章一〜18節

そこで、全地は驚いてこの獣に服従した。……人々は竜を拝んだ。人々はまた、この獣をも拝んでこう言った。「誰がこの獣と比べられよう。誰がこの獣と戦うことができようか。」(3、4)

獣の幻が語られていますが、この獣は強大な軍事力と政治力によって世界を支配する国家権力を象徴しています。黙示録が書かれた当時で言えば、ローマ帝国を指します。竜とは、その背後にある悪魔的な力です。世界の歴史において、巨大化した国家は「獣」化していきます。それらは暴力によって世界を支配しようと試み、自分たちの戦争を「正義の戦争」と呼んで正当化します。さらに、自己を絶対化、神聖化し、国民に無条件の服従を誓わせ、皇帝礼拝、国家礼拝を強要します。教会は黙示録が語る警告に耳を傾け、獣と化した存在を礼拝するのではなく、小羊なるキリストのみを礼拝する道を常に選び取ります。主イエスに会いに来た東の国の博士たちが、この世の王であるヘロデではなく、幼子イエスに礼拝をささげたように、私たちも真の王を礼拝し続ける者たちでありたいものです。